



10月4日にJA あぐり鳥羽店近くの畑で加茂小学校児童が、また10月5日に弘道小学校校庭で児童がサツマイモ掘をしました。

収穫された芋のうちの一部は、鳥羽市がこれから力を入れて普及を目指す「兼六」という品種で、しっかりといて甘みが強く、栽培の難しさや収量が多くないことなどから現在は希少種となっています。国崎町の海女さんは、この「兼六」を漁業の傍ら栽培し、干し芋（きんこ）に加工してきましたが担い手不足などの課題があり、市の農業振興事業として市内の生産者の増加、栽培地域の拡大および生産量の増加を目指しています。

サツマイモ掘りに参加した子どもたちは「抜くのがむずかしかったけどたのしかった」と笑顔で話してくれました。

鳥羽市の小学校でサツマイモ掘体験！



10月15日、オクトバイイベントの一環として、子どもたちが研究員となり、博士（研究所職員）から出された研究指令に挑戦していく体験イベントが開催され、幼児から小学生の20人が参加しました。

子どもたちは、海洋生物を観察して絵を描いたり、塩分濃度の異なる海水や塩水などを飲み比べて鳥羽の海水を当てるクイズなどを行い、最後にSDGsの取り組みとして、カサゴとヒラメの稚魚を海に放流しました。

水産研究所で海藻博士のおしごと体験！



10月8日・9日、オクトバイイベントの一環として市民の森公園で鳥羽クラフト展とプレイフルマルシェが開催されました。

クラフト展とは全国から集まる工芸作品の展示即売会で、陶芸や木工作品、革製品など魅力的な作品がずらりと並びました。またクラフト体験コーナーや、今年はプレイフルマルシェと同時開催ということでフードトラックや飲食店が出店し、大勢のお客さんでにぎわいました。

鳥羽クラフト展大盛況！



9月28日、中北薬品株式会社と災害時等における応急生活物資供給等に関する協定を締結しました。これは、大規模災害時だけでなく、感染症まん延時などにおいても、紙おむつや生理用品、粉ミルク、マスク、消毒液など、必要な応急生活物資の調達や運搬について協力いただけるものです。

中村市長は「災害や感染症のリスクがある中、物資調達や運搬といった支援をお願いできるところがあるのは非常に心強い」と期待を寄せました。

災害時等における協定を締結しました